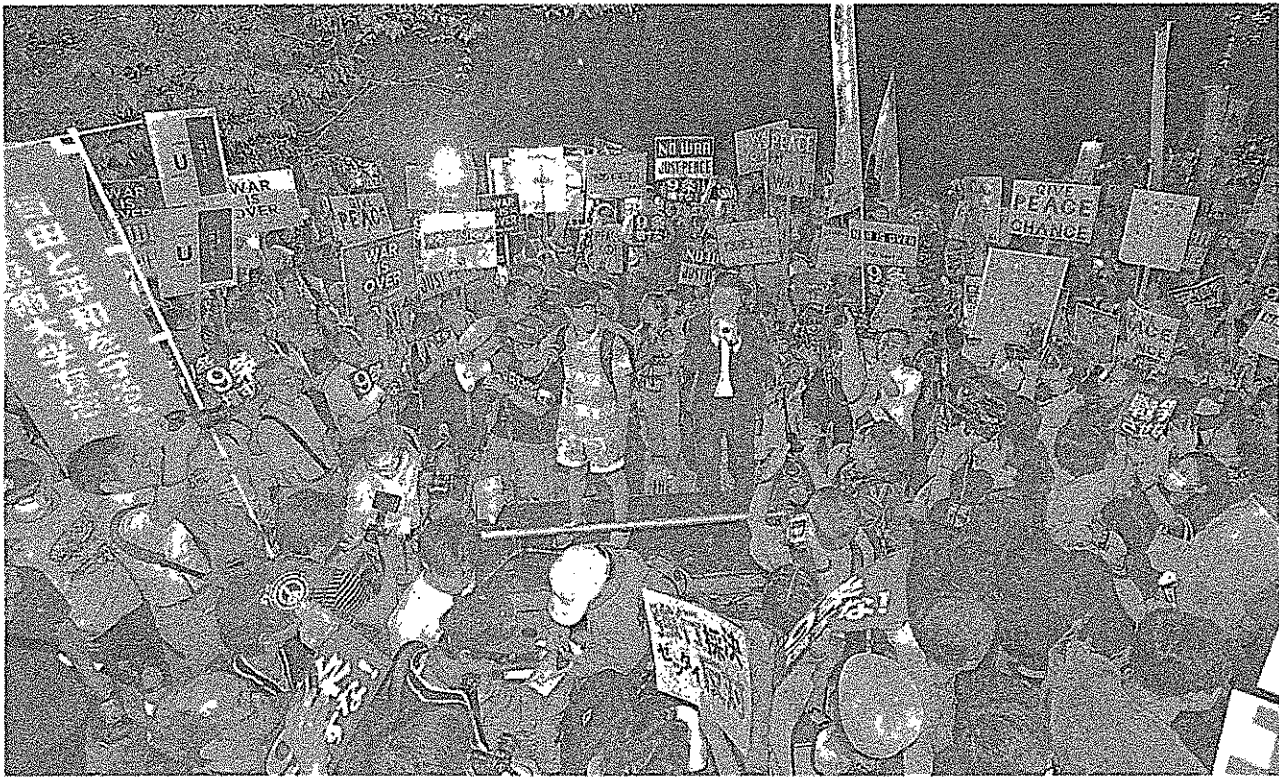


戦争法案 強行せよせない



戦争法案反対の声をあげるSEALDsのメンバー＝15日、国会正門前

怒りの渦 連日

参院安保法制特別委員会で中央公聴会が開かれた15日、「総がかり行動実行委員会」の呼びかけで、国会周辺は北海道から沖縄まで大勢の人たちが詰めかけ、戦争法案の廃案を迫る座り込みや集会が終日行われました。SEALDs（シールズ＝自由と民主主義のための学生緊急行動）の奥田愛基（あき）さんが陳述したことが紹介され、「しっかりと連帯してがんばろう」の訴えに大きな拍手が。午後7時半すぎには、シールズが行動を引き継ぎ、「強行採決絶対反対」「今すぐ廃案」と声をあげました。

国会前「総がかり」とシールズ

「総がかり行動実行委員会」の行動に続いて、SEALDsが国会正門前で抗議行動を実施しました。安倍政権が週内にも強行採決をねらう姿勢を崩さないも、深夜バスなどに乗り、全国各地から学生が駆けつけました。

中央公聴会で陳述した奥田さん（大学4年生）が冒頭、マイクを握り「戦争法案にはぜんぜん納得してない。採決できるような状況じゃない。廃案しかない」と訴えました。「何かしなければ」と、大阪府吹田市から参加した大学4年の山路和貴さん（21）。「こんなことがあっても、おかしいことには声をあげ続ける一人でありたい」と話します。

島根県浜田市から来た飯尾和記さん（21）は大学3年生。「地元での大きな集会に参加し、『今声をあげなければ』と思い東京に来ました」

仙台市に住む菊地亮太さん（30）は「被災地へのしっかりとした対応をせず、戦争法案を押し進めようとする。絶対に止めたい」と話しました。SEALDsは、金曜日まで毎日、国会前抗議を予定しています。

昼から続いた「総がかり行動実行委員会」の行動は、時間を追うごとに人波がふくらみ、1万人以上（主催者発表）に。「たたかいを全国に広げて絶対に廃案にする」とのスピーチが続きました。元陸上自衛隊員の末延隆成さんは「仲間の隊員を殺されたくない。国民を危険な目にあわせない。安倍政権のやっていることは、国民に対する背信行為です。力をあわせて、こんなばか法案を阻止しよう」と訴えました。

地元に戻って宣伝するという宮入啓子さん（22）は「公聴会は国民の意見を聞いてさらに議論を深めるためのものです。強行採決なんて汚いやり方は許さない。絶対に廃案しなさい」と語ります。9月15日の娘と国会前に来るのは3回目というのは同市武蔵野市の山田晶子さん（38）です。「平和な暮らしを次の世代に引き継ぐ責任が私たちにはある」と

日本共産党の穀田恵二国対委員長をはじめ、民主党、社民党の国会議員